

藤井 貞蔵（ふじい・ていぞう）

1、プロフィール

歌人。呉服衣料の専門店三元の創業者でもある。八戸では最も早い時期に「アララギ」に短歌を発表した。

<生没>

1898(明治 31)年9月1日～1974(昭 49)年4月 15 日

<代表作>

『藤井貞蔵 遺歌集』

<青森との関わり>

八戸町の人。歌友木村靄村らと「八戸短歌会」を作り、中心となった。

2、作家解説

明治 31 年9月1日、八戸町に藤井常吉、チヨの長男として生まれる。

八中卒業後、病のため仙台の大学病院に入院。この頃より短歌創作を志し一時上京するが、まもなく帰郷し、本家である三春屋呉服店の仕事に従事した。その傍ら歌作を続け、斎藤茂吉に手紙による指導を受けたといわれる。

大正 10 年藤井貞蔵として「アララギ」に出詠。八戸では最も早い時期で、その後木村靄村や三浦惣三郎が続いて参加した。年齢も近い貞蔵と靄村は以後歌友として長く親交を結ぶ。

昭和 20 年7月、三春屋から分家した貞蔵は必死で商売を続け、短歌創作は中断せざるを得なくなった。

24 年春、仲間5人と三間四方の店を開き、「三元」と名づけ、業績を伸ばしていった。経営が安定した昭和 35 年、長年胸の内に抱き続けていた短歌への思いが再燃、木村靄村に相談の上、月に1度自宅を開放し、歌会を催すこととなった。貞蔵、靄村の他、渡辺英三郎、山根勢五、道合千勢子ら常に十数名が参加して、活発な活動が続けられたが、昭和 49 年貞蔵が没したことでこの歌会も解散するこ

ととなった。しかしこの八戸短歌会に集った人々が以後もこの精神を受け継いで発展に努めていった。

藤井貞蔵の短歌は骨格のしっかりした大らかな歌風であり、真摯な姿勢は生涯揺らぐことはなかった。

3、資料紹介

○『藤井貞蔵 遺歌集』

図書

1980(昭和 55)年4月 15 日

170 mm × 128 mm

7回忌を機に出版された、唯一の歌集。昭和 48 年までの詠歌を収録。37 年以降 48 年までは年毎の作品が収録されている。作品数は多くないが確かな歌の世界がよみとれる。山根勢五の序文、藤井貞蔵追悼歌会詠草、思い出の記。180 頁。